

博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程
博士学位論文審査委員会

主 査 篠崎道彦

審査委員 前田英寿

審査委員 伊藤洋子

審査委員 谷口大造

審査委員 鮫坂 徹

*審査委員

氏 名	中村 弘
論文題目	1890 年～1981 年の銀行建物に関する研究 -銀行の大衆化と建物外観の建築要素の変化 -

〔論文審査の要旨〕

銀行の構造的な変化の中で、銀行業務の変化と銀行建物の外観要素の変化との関係を銀行の大衆化を視点に検証した研究である。1890～1929 年に建設された 5 銀行（三井・三菱・安田・住友・第一）の銀行建物 121 件、1930～1981 年に建設された 2 銀行（三菱・住友）の銀行建物 149 件を対象に、建築様式を構成する建築要素の有無を調査し、銀行の大衆化を経営方針・金融商品展開、銀行勘定、銀行店舗配置の 3 つの視点から分析した上で、銀行建物外観の建築要素変化と銀行業務の変化を照合した。主な結論は以下の通りである。①1890～1929 年の銀行建物では建築要素 10 項目が確認され、9 要素が 60% 以上で採用されている。②1930～1981 年の銀行建物では 10 要素のうち 1930 年以降も採用された建築要素は 2 要素で、1944 年から 1962 年が機能的・現代的な銀行建物への移行期である。③銀行の大衆化は、産業金融に加えて個人取引の開始・拡大により展開した。④銀行の大衆化以降、個人顧客を主とする地域の店舗では 1962 年前後、法人顧客を主とする店舗では 1970 年代まで古典主義様式の建築要素が確認され、店舗が対象とする主要顧客の違いによって銀行建物外観の変化が異なることが明らかとなった。

最終審査および公聴会は 2019 年 7 月 24 日 16:30 から約 2 時間、豊洲キャンパス 408 教室において実施した。論文内容の発表と質疑応答の結果、予備審査での指摘事項に対する追加作業および修正内容は概ね適切であり、論文の客観性を向上させかつ主要な結論と矛盾しないことが確認された。審査委員の評価点は 5 名の審査員いずれも専攻が定める合格の基準を満たし、投票においても全員から合判定を得て合格となった。